



7.11 水害から30年シンポジウム

～あの日の記憶を今日につなぐ、明日の未来のために～

入場無料
当日参加可
定員
500人

令和7年

11/23[日・祝]

13:30～16:00(予定)

開場13:00

高田城址公園オーレンブラザ ホール
(上越市本城町8-1)

1995年、関川・姫川流域の上越・妙高・糸魚川に
甚大な被害を及ぼした「7.11水害」から30年。

この水害の記憶は薄れつつありますが、

豪雨・洪水による被害は全国各地で激甚化・頻発化しています。

水害が身近に起こりうる出来事として捉え、

旧新井市楡島の猿橋が落ちる

「流域治水」の考え方から私たちに何ができるのか。

地域防災力を高める貴重な機会として、シンポジウムを開催します。

大きな災害をもたらした姫川の濁流

95 7 11

[プログラム]

「安全で親しみのもてる
関川・保倉川を目指して」

講師 小池 俊雄氏
(土木研究所水災害・リスクマネジメント
国際センター センター長)



基調講演

「川の風景とまちづくり」

講師 佐々木 葉氏
(早稲田大学理工学術院創造理工学部 教授)



「激甚化する水害に対して、今、何が必要か?」

パネリスト

小菅 淳一氏(上越市長)
久保田 郁夫氏(糸魚川市長)
城戸 陽二氏(妙高市長)
佐藤 翔輔氏(東北大学災害科学国際研究所 准教授)
羽賀 正世志氏(新潟県上越地域振興局地域整備部長)
吉田 仁史氏(新潟県糸魚川地域振興局地域整備部長)
尾崎 誠氏(国土交通省高田河川国道事務所長)
佐々木 葉氏 小池 俊雄氏

パネルディスカッション

コーディネーター 高橋 直子(新潟日報社執行役員論説編集委員会委員長)

当日参加可

当日、会場参加の受付を行います。
参加をご希望の方は、当日会場の受付に直接お越しください。
※事前受付は終了し、お申し込みいただいた方には、参加証をお送りします。
※定員に達し次第、当日の受付は終了いたします。

[オンライン参加について] 定員: 先着500人

▼こちらのQRからお申し込みください



※お申し込み後の返信メールで、Zoomでの参加用URLをお送りします。
※先着での定員に達し次第、申し込みを締め切ります。
※視聴ページのURLを第三者に提供することは禁止します。
※ライブ配信を録音・録画・撮影すること、SNSなどへのアップも禁止します。

※お申し込みの際の個人情報は、本シンポジウム開催に関わる必要な範囲でのみ利用させていただきます。

主催: 関川・姫川流域治水協議会
共催: 新潟日報社

お問い合わせ

シンポジウムに関して／国土交通省高田河川国道事務所
お申し込みに関して／新潟日報社上越支社業務部

TEL 025-521-4540

TEL 025-523-9710(土日祝を除く9:30～17:30)